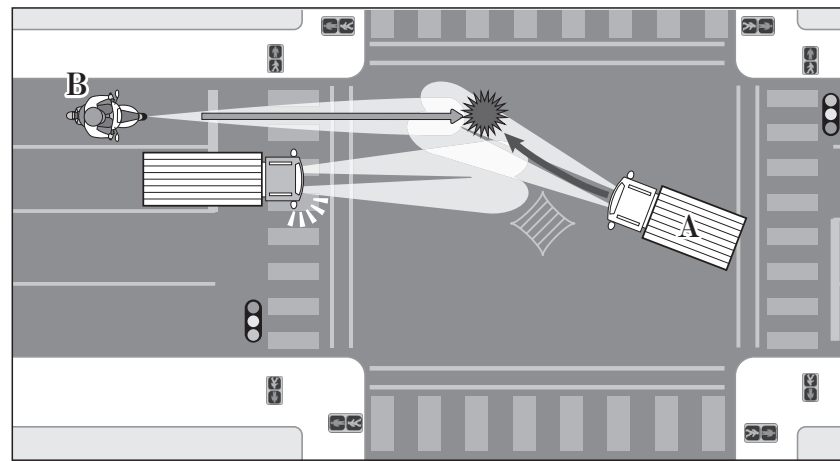


職場における交通安全指導

Part 106

夜間、交差点を右折する際、直進してきた二輪車と衝突



■事故の概要

●発生日時

日時：平成25年10月某日 午後8時頃

天候：曇り

●道路状況

片側二車線の交差点

●事故の当事者

運転者 A (中型貨物車)：26歳、男性

被害者 B (自動二輪車)：46歳、男性

●被害状況

A：左前部小破

B：重体 (全身打撲、頭部損傷)

事故状況

Aは、トラックの乗務経験が6年目になる若手ドライバー。仕事自体は、だいぶ慣れてきたせいか、入社当時より落ち着いてきたが、運転ではせっかちな性格のため、ヒヤリハットが多いドライバーで、この6年間で軽微な物損事故を数回起こしていた。

この日は、静岡市内にある会社に電気製品を納品し終えて帰社する途中であったが、東名高速の渋滞に巻き込まれたことでいつもより帰社が遅く

なり、気持ちに焦りが出ていた。

事故現場は片側2車線の交差点。この交差点を右折し300mほど先に会社がある。右折する際対向車一台を確認したが、後続車はなく、その対向車が右折のウインカーを出したため、自分の進路は問題ないと判断し右折したところ、対向車と一緒に直進してきた自動二輪車Bを発見、慌てて急ブレーキを踏んだが間に合わず、衝突してしまった。

事故の原因

事故当時は、10月の午後8時とあって夜間の走行で、対向車のライトに惑わされ二輪車の存在に気が付かず、対向車はトラック一台のみと勘違いしてしまった。右折途中で二輪車の存在に気が付き急いでブレーキを踏んだものの、スピードが速かったため思ったより止まらずに、なんとか停車したもののBの走行車線上に停車、Bもまさか右折してくるとは思っていなかったため、ブレーキを掛けたが間に合わず衝突してしまった。

Aのせっかちな性格と帰社が遅れたための焦りの心理、またこの交差点を右折すれば「もうすぐ会社だ」という安心感が危険意識を薄れさせ、今回の事故を招いたと考えられる。

事故発生のプロセス

帰社が遅くなり焦っていた

対向車のライトでバイクを見落してしまう

危険予測をせず、交差点に進入したため、二輪車と衝突

安全指導

① 交差点とその付近における事故状況

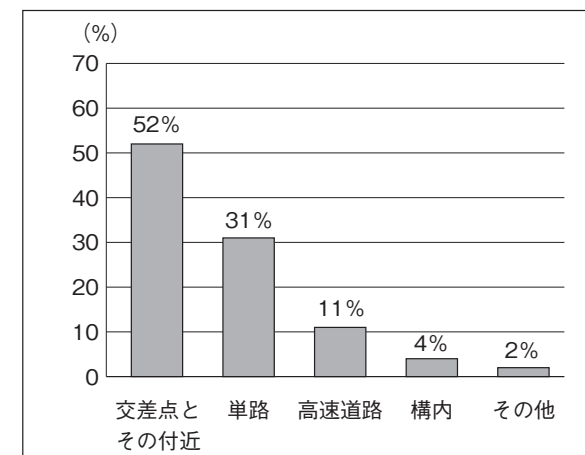
道路形状別において、「交差点とその付近」での事故は、例年高い割合で推移しています。

平成27年度の当組合で発生した対人事故における交差点およびその付近の事故は全体の46.7%と高く、今年度に入ってから、4月から8月末現在では52%と昨年以上に高い比率で事故が発生しています。

当組合では、交差点事故を交通事故防止の重点項目の一つに掲げ、最重要課題として取り組んでいます。

今回のような右折時の対向直進する二輪車や右左折時の車両死角の交通弱者などに注意を払い、「…かもしれない」運転を励行し交差点事故の根絶に努めてください。

当組合における道路形状別対人事故発生状況 (4月~8月)



② 右折時の事故防止のポイント

対向車は直進の場合、自分が優先だという「先入観」があります。また、自動二輪車の場合は、四輪車と違い、急な停止は難しく、急ブレーキを掛けてもバランスを崩して転倒する場合もあるため、右折する際は十分な注意といつでも止まれるスピードで進入する必要があります。

◎右折時は対向車が右折、直進、左折するかわかり確認をする。

◎対向車が大型車の場合は、死角にバイクがいることもあるので、一時停止し対向車の状況をしっかり確認する。

◎対向直進車が二輪車の場合は、車体が小さいこともあり、距離感を見誤ることがあるので、通過を待って右折することが一番の安全走行と言えます。

◎余裕がなく、また強引な右折をした際、右折後の横断歩道を歩く歩行者や自転車と接触する場合もあるので、ゆとりを持って右折することを心掛けてください。

対向車に道をゆずられて起きるサンキュー事故は後を絶ちません。対向車の陰に潜む二輪車には十分な注意を払い、慎重な運転を心掛けましょう。

③ 夜間での事故防止のポイント

夜間を走行する場合、周囲が暗いため、歩行者や自転車の発見が遅れがちになります。また、視力の低下、眠気、漫然運転を引き起こしやすいので、注意して走行しましょう。

◎対向車のライトに眩惑されると、一瞬何もみえない状態になり凝視するため、一点に集中しがちですが、視野は常に広く持ちましょう。

◎夜間は昼間と違って実際の速度より遅く感じやすいため、ついスピードを出し過ぎてしまうケースがあるので、スピードには注意しましょう。

◎右折する際は、ヘッドライトの照射範囲が限られ、右側から横断する歩行者や自転車の発見が遅れる場合があることを認識しましょう。

◎右折する際、対向車のライトや街頭などの明かりで二輪車や自転車の発見が遅れる場合があるので、スピードを落とし、安全確認をしっかりと行い、余裕をもった走行を心掛けましょう。